

やまがら(山雀)



毎年、冬には自宅に来てくれます。

伊方原発をやめて、子ども達に安心未来を引き継ごう！

- 命と人権・平和を大切に、人にやさしい松山市政を実現しよう。
- 教育と子育て予算の増額と、医療・介護・福祉を充実させる市政に転換しよう。
- 電車・バス・フェリーのシルバーパスを実施して元気な高齢者が活躍するまちにしよう。
- 市民の知る権利と表現の自由を奪う「特定秘密保護法」を廃止しよう。
- 公契約条例を制定し、官製ワーキングプアを無くしていこう。
- 安倍政権は「人を殺し、殺される」戦争法を撤回せよ！



発行・梶原ときよし



質問

市長は2004年に、2015年度における水

2004年に、2015年度の本市の水不足量が4万8000トンになると予想し、現在供給能力日量14万7000トンに対し、日量18万8600トンの水が必要としたが、実際は、1日平均で13万6000トンしか需要はなく、4万8000トン不足どころか、現在の給水能力でも1日40000トン(年間で146万トン)も余力があったことについて

ネットワーク市民の窓の梶原時義でございます。今月10日、広島カープが25年ぶり7度目のリーグ優勝を果たしました。戦後の混乱期にあった被爆地広島に、1949年県民球団として誕生した広島カープは、設立26年目の1975年に赤ヘル旋風を巻き起こし、初優勝をしました。私が高校3年のときです。たしか初優勝した翌日、カープファンだった数学の先生を教室で胴上げして、一緒に喜んだことを、なつかしく思い出します。今回は91年に6度目の優勝をして以来、実に25年ぶりの優勝!!もの心ついたところから、50年以上、カープを応援してきた広島出身の私としても本当に嬉しく、美味しいビールを味わえた一時でした。カープファンとしての思い出や自慢話はたくさんありますが、この辺で質問に入ります。

不足水量はゼロ!!(逆に1日4000トン・年間146万トンも余る)なのに西条分水利権工事のために水道代を大幅(※50%も?)に上げるのですか?

野志市政は西条分水のための水不足量の水増しをやめて、市民に真実を伝えよ!

梶原ときよし

9月議会
一般質問

前回の予測(4万8000トン不足)⇒予測は大はずれ!

2004年に発表した
2015年度の不足水量予測

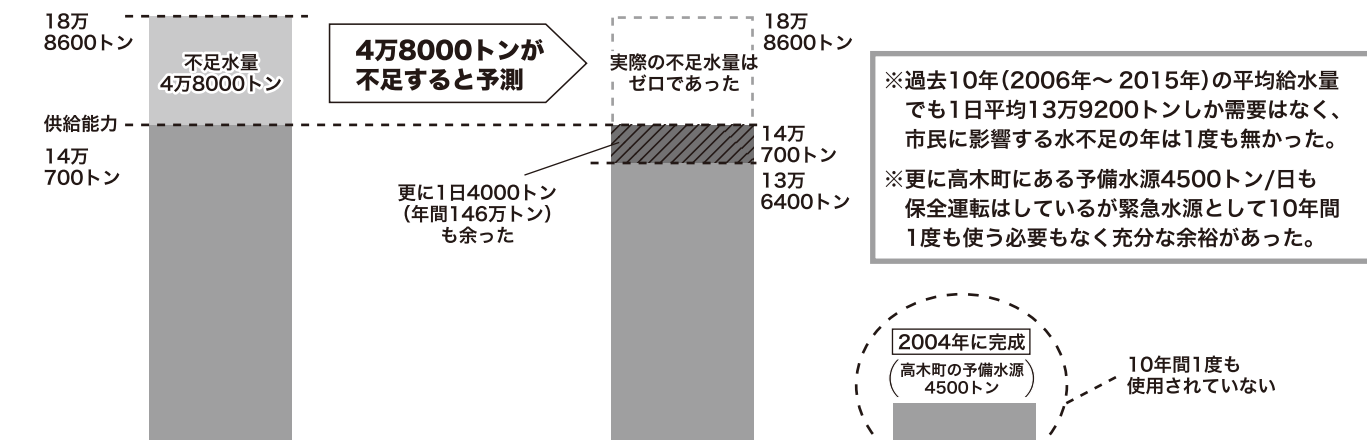
10年経過した
2015年度の結果は?



水不足量はゼロだった!
だけでなく、逆に1日4000トン
(年間146万トン)も余った

◎18万8600トンが必要と予測

◎13万6000トンしか需要はなかった



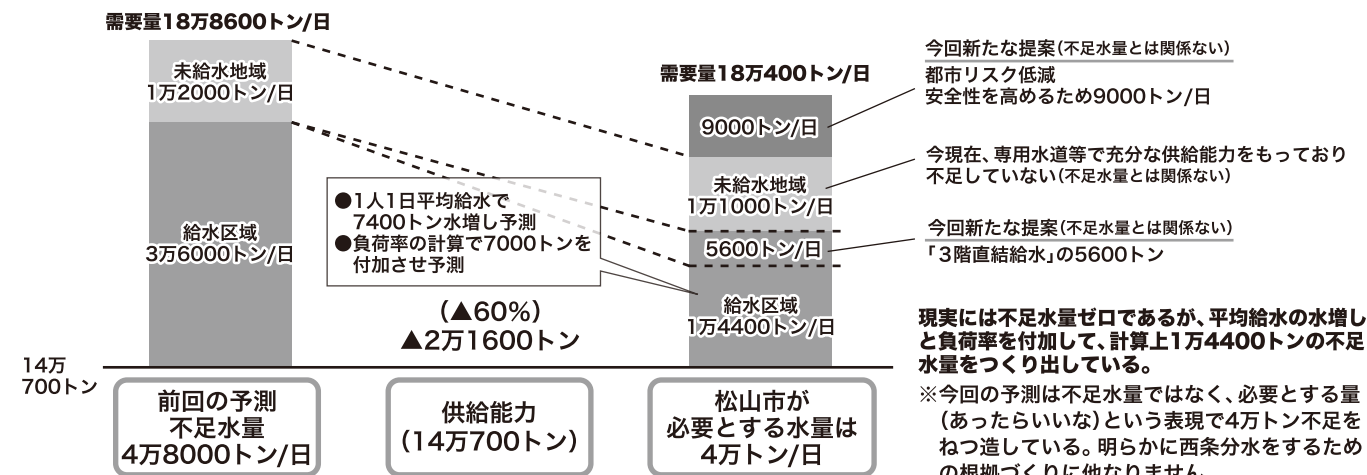
今回(2016年)の2025年度不足水量予測

前回(2004年)

◎2015年度の不足水量を
4万8000トンと予測したが
結果はゼロだった

今回

2025年度不足水量を4万トンと予測



◎10年後2025年には給水人口が15,600人減に、20年後の2035年には更に今より34,000人も減少するため、更に1日1万トンの需要が無くなり、平均給水で12万6000トン/1日となり、1日1万4000トンの水が余る!
※市内2200キロメートルにおよぶ水道管路の耐震化工事が急がれる中、その工事費(545億円)に増して、西条分水(400億円以上)が行なわれれば、市民の水道料金は大幅(50%以上?)に上がります!!

担当部長答弁 現行計画で予測した水需要は、当時の最新の知見で予測した適正なものであり、「間違い」といった表現は当たらないと考えています。

質問 2004年に予測した水需要は結果として完全に間違いだつたと認めるべきではないか。

未給水地域のための分水は1万2000トンでしかなく、これを除いたとしても3万6000トン不足と予測しており、実際よりは6倍も付加していたこととなる。

こうしたことから、責任は誰が取るのかといった問題には当たらないと考えています。

水資源担当部長答弁 ※以下、担当部長

では、人口が予測より少なくなったことや、近年の節水意識や節水機器の普及が想定以上に進んだことに加え、未給水地域の統合を前提とした計画であり、統合できないといった事情から、結果的に近似しなかったと考えています。

需要予測を、2004年の供給能力日量14万7000トンに対し、4万8000トン不足すると予測し、400億円以上もかかると言われる西条分水を推進してきた。しかしながら、1年に1日しかない最大給水量でも14万6500トンしか必要なく、1日で最大6000トンの不足でしかなかった。実際より8倍も外れ、付加した数字は、見込み違いとは言いがたく、不足量に対応した政策を大きく誤らせた責任は誰が取るのか。

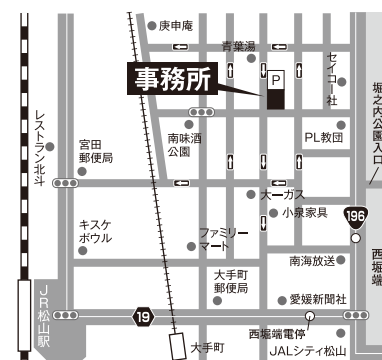
梶原ときよし事務所

〒790-0813 松山市萱町2丁目1-2
TEL 089-947-2258 FAX 089-947-2259
携帯 080-5669-8586
E-mail sizenha-812@lib.e-catv.ne.jp

- 午後1時～午後5時まで(月～木)
- 金・土・日・祝日はお休みです。



お近くにお越しの際は、ぜひお立ち寄りください。



梶原ときよしの活動予定や市議会のスケジュールはHPでご確認いただけます。

市政他、何でも相談をお受けしています。
ご連絡ください。

ホーム
ページ

梶原ときよし 公式ホームページ

検索

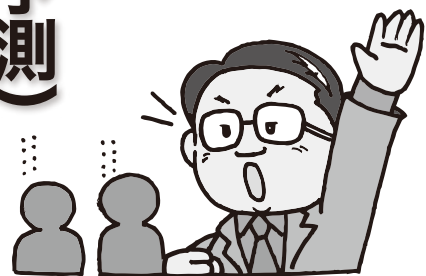
「スケジュール」に行動予定と感想を入れていますのでクリックしてください。

(四面に詳細図あり)

議会公質問

9月議会一般質問より抜粋

2016年9月15日



（前回の4万8000トンの不足と今回の4万トン不足予測） 超過大な水需要予測は 西条分水をしたいがための予測では!?

（二面より）

再質問 政治をする人は、予測に基づいて400億・500億円も市民の税金を使います。

予測が外れたら、万が一先にやっていたら400億・500億円は水の泡ではないですか。市長責任ではないですか。間違ったなら、間違ったという結果を市民に伝えないと、それを伝えず今度は4万トン要りますというのは、話になりません。結果として13万6000トン。あなた達は18万8000トン要ると言ったんです。5万2000トンも間違いがあった、結局不足量はゼロだったじゃないですか。このゼロだった事実だけは認めませんか。

担当部長再答弁 予測時の前提条件が整わない場合の実績値はもともと近似しない要素を含んでいまして、間違いないといった表現は当たらないと考えています。

結果的に水不足量はゼロだったにも関わらず、それを認めないだけでなく、誰も責任を取りません！（東京都の豊洲市場問題と同じです。）

質問 この水需要予測をもとに、何百億円もの公共事業をするのだから「外れてごめんない。実は不要でした。」では済まされない。西条分水をしたいがための数字合わせだったのではないかと。

担当部長答弁 平成16年に現行の水需給計画を策定した後、黒瀬ダムからの分水に取り組んできたことは、「数字合わせ」ではないことは明らかです。

再質問 「10年後の2015年には18万8600万トンには必ず要ります。市民の水不足のために4万8000トンが必要。そのために西条分水」と言ったじゃないですか。

でも10年たってみたら不足どころか4000トン余っていました。年間146万トン余っていました。どうしてこの事実を伝えないのでか。

市民は西条分水をしたいがために、ただの数字合わせだったんじゃないかと疑っています。きっちりとした説明をもう一回してください。

担当部長再答弁 平成16年に現行の水需給計画を作成した後、平成17年の議決に至り、以降、黒瀬ダムからの分水に取り組んできたことはご案内の通りです。こうした経緯から数字合わせなどではないことは明らかです。



梶原ときよし（ネットワーク市民の窓）

※2016年9月議会でも一般質問と討論で2度登壇しました。（本議会定例会6年間26回連続登壇記録更新中）

前回予測が超過大予想だったと明白になった（結果として不足はゼロだった）にも関わらず、反省もなくまた（10年後の2025年には4万トン不足と出した理由について

質問 結局、必要もない西条分水を合法化させるために、中村知事と一緒に、渇水が来たらどうするんですか」と市民の不安を、水不足とは関係のない「あつたらいいなレベル」の直圧給水や「水源が使えなくなったらどうするか」という思考で出してきたのが、新たな4万トン不足という反省のない数字である。

①外部委員会で専門の学者が指摘しているにも関わらず、それを無視して、担当課レベルが4万トンと決めていいの。また、なぜ実績とかけ離れた数字を予測するのか。

②あればいい3階直結給水5600トン、なくては生活に困る水不足に入れるのは、これこそ水不足の水増しではないのか。

③今回の新たな予測の初年度に、1日の最大給水量で早くも1万3000トンの予測過大がある。実績数字を採用せず、1人1日平均給水量の水増し（2015年は実績で281リットルなのに設定を297.3リットルに設定している）と負荷率を過去10年平均の91.6%よりも4.6%も付加させ、過大予想をつくり出した結果であり、実績に即してやり直すべきではないか。

担当部長答弁 都市の安全性への対応を考慮し、将来の予測を行った適正なもので、その結果、新規水源開発の必要量が、4万トンになっています。

また、3階直結給水についても、他都市の状況等から「あるべきもの」として、備える必要があると考えます。昨年は、夏の需要期を含めた上半期に、平年に比べ、200ミリも多い降雨があったことから、結果として、水需要量は低いまま推移しました。したがって、こうした一時的な実績水量と今回の予測に一定の差異が生じたとしても、そのことを持つて目標年次である平成37年度の需要予測が過大とは言えませんし、やり直す考えもありません。

降雨が多いことと水需要が低く推移したことは全く関係がない！



質問 そもそも水需要の算出において、1年に1日しか必要としない1日最大給水量をもとに、1年365日満たす量を必要量としているところ、誤りの根源であり、年間の1日平均給水量が保障されれば十分である。万が一の渇水時のために負荷率での調整（1万2000トン）があり、高木町に普段は使わない4500トンの予備水源がある。市長の言う渇水時都市リスク低減とやらに9000トンいると仮定しても、現状で常時5カ月以上（162日分）の都市リスク低減に対応できる。いいかげん西条分水ありきの数字算出はやめるべきではないか。

担当部長答弁 水需要量の算出については、「水道施設設計指針」に基づき需給計画を進めていますので、水量算出は適正なものです。

中村知事の推進する西条分水では渇水時のリスク回避にはならず県都松山の市民に責任が持てないのではないかと

質問 市長は日頃から中村知事とともに、西条分水を進めるにあたり、本市には石手川ダムと地下水という2つの水源がなく、渇水時に県都の機能が麻痺しないよう都市リスク低減の必要性を強調している。また、中村知事は、今月の5日の記者会見で、本市の試算を本市議員が水不足量の過大評価だと指摘したことに対し、もしものときにどう責任を取るのかと発言している。知事発言にある気候変動や、もしものときは、どういう想定のとときか。

担当部長答弁 知事の発言は、地球温暖化やヒートアイランド現象などの気候変動や大規模災害のように、本市が将来想定すべきリスクに襲われ、市民への安定給水に支障が生じる場合を指していると推察しています。

質問 何度も言いますが、松山市の平均給水1日13万6400トン、松山市の毎日の供給能力は14万7000トン、毎日毎日4000トン余っています。これを4万トン不足ということで18万トンにしてしまふと一日で1400万円、1カ月で4億円、1年で50億円の水道代を石手川、重信川に流すようになります。私達の水道代は使わずに海に流れます。水道料金はランニングコストですけれども、もちろんインシャルコストが500億、今頃工事費があがっているから1000億、何億になるかわかりませんが、そのお金も私達の水道代で海に流す。こういうことになったとき、野志市長は責任を取れるのでしょうか。

本市が100年に一度という渇水時は、西条も渇水と見るべきであり、石手川ダムも地下水も西条の黒瀬ダムも同じで、雨に頼るしかない。結局のところ、もしものときの都市リスクの回避は、福岡市が行っている海水の淡水化以外は不可能である。

雨頼み、お天気任せの西条分水は、400億円以上のお金がかかるだけで、最適とは言えず、気候変動に備える第三の水源には成り得ないのではないかと。

担当部長答弁 黒瀬ダムからの分水に関し、同時渇水の危険性が低いことを確認しています。さらに愛媛県、西条市、新居浜市、そして本市の4者による水問題に関する協議会では、黒瀬ダムには、日量5万8000トンの水があることを確認しています。こうした事情から、黒瀬ダムには本市が求める水はあると考えています。

西条市は黒瀬ダムからの松山市への分水を初めから拒否しており、分水実現の可能性は元々ありません!!

- 水不足がない東温市、砥部町、松前町を含む広域で対応していく案。
- 今、管のきてる面河ダムからの分水案。
- 今ある深井戸、そして最後に淡水化。

※これで完璧な水問題対策になるのではないかと私は思います。

